東京家政大学　リサーチウィークス
ポスターセッション

学生と保育者の協働で創る子どもの豊かなアート活動の実践報告

東京家政大学
子ども支援学部子ども支援学科　保坂ゼミ

かせい森のおうち

Ⅰ．はじめに

- 本学部学科では、2014年開設当初より、狭山キャンパス内に併設する認可保育園「かせい森のおうち」との連携により、造形表現活動「もりのあーとくらぶ」を実施している。
- 2022年度より保坂ゼミの３、４年生が造形活動の立案、実践を主体的に行い、子どもの表現活動の実際に関わる学びの場として活用している。
- 更に2023年度は、学生が活動を記録しポートフォリオとしてまとめ、保育園へ提供し、保護者への提示を行なっている。
- 本報告では、こうした子どもの育ちについて、教員、保育者、学生の協働による活動から、その有用性についてキーワードを抽出していく。

Ⅱ．方法

- 本学子ども支援学科では「すべての子どもの可能性を広げられる保育者養成」を教育目標に掲げたカリキュラムを構成し、中でも「子ども芸術・文化科目群」を独自に開設している。
- 保坂ゼミの学生は「造形表現領域」を研究テーマとし、［子ども芸術（臨床美術）］を履修している学生が多く、臨床美術士資格を取得する学生も多い。
- これらの教育的実践の目的を兼ねて、キャンパス内保育園園児に対して、研究者、保育者、ボランティア学生によって、「臨床美術」を取り入れた造形活動をこれまで毎月実施していた。
- 本年度は、学生が活動の立案・運営する中で、①活動記録をポートフォリオにまとめ、保育園へ提供し、保護者へ子どもの活動プロセスの姿を報告し、②子どもの姿をどのように捉えるか、ポジティブな観点から評価することによって、子ども理解を深めることとした。

Ⅲ．活動プログラム

　活動は、「もりのあーとくらぶ」と称して、日常的な保育活動とは区別され、保育園に隣接された大学内の実習室に移動して、３歳児、４歳、５歳児を2クラスに分け、月に1回60分の活動を実施した。活動は、学生（保坂ゼミ３年生、４年生）が立案、進行し、保育者は子どもの援助にあたった 。

造形プログラムは、

①身体感覚を思い切り使って表現できる色彩表現や立体表現

②様々な技法や画材・教材に触れる体験を重要視した多彩なプログラム

③自分の感じたことや考えたことを表現する場を保障する援助

④鑑賞会によりそれぞれの作品の魅力を認め合う共有の場づくり

を柱として、構成した。

かせいもりのおうち
もりのあーとくらぶ2023

「もりのあーとくらぶ」では、臨床美術（Clincal Art)のエッセンスを取り込んだ”子どもアートアプローチ”の考え方を基盤に子どもたちと造形活動を楽しむ内容としている。感覚的な表現活動を中心に、想像力や感性、手先の発達（微細運動）を促しながら、共に創り、個性を尊重し合う心と体を育むことを目的としている。

月	ねらい	3歳	4歳	5歳
4月			こいのぼり	
5月	混色を楽しむ	三原色パズル		
	色彩あそび		いろいろコレクション	
6月	七夕祭りのための制作	合同　七夕飾り		
7月	夏の風物詩を楽しむ	合同　花火のガラス絵		
8月	身体で表現する	合同　カラフル渓流ラインくだり		
9月	染める楽しさ	染色		
	染める楽しさ		染色	
10月	紙素材による立体工作	かぼちゃをつくる		
	モチーフの魅力を楽しむ		あじ（鯵）を描く	
11月	粘土制作	とうげい		
	粘土に触れる		とうげい	
12月	デザインによる季節の制作	クリスマスツリー	クリスマスツリー	
1月	節分行事	鬼のお面		
	節分行事			鬼のお面
2月	行事制作	雛人形		
	行事制作			雛人形
3月	1年のまとめ	フォトフレーム		
	1年のまとめ			自分をつくる

学生の協働による もりのあーとくらぶ ポートフォリオ制作

学生が主体的に活動を立案、実践し、
画像によって記録し、ポートフォリオを制作

5月 色いろコレクション

オイルクレパスで混色を行うことで「暮の色」「夕の色」等子どもが感じたままに色を伝えている姿を通して日常と絵が結びついているのではないかと考察した。

①②④ ⑤⑩
カードを隅々まで一色で塗る子どもそれぞれ真ん中に様々な色を塗る子どもそれぞれ。「虹つくる！」と虹のように何本も線を引いている姿が見られた

①④ ③⑩⑨
「手が真っ赤になった！」「みてみて！」と友達や保育者に手を見せる姿がみられた。
手に映るクレパスの色を不思議そうにみえた

⑤⑥⑦ ⑨⑩
自分の机の上に出来たカードを広げて保育者にどんな色を作ったのかを説明している姿があった
どんな色なのかを共有しながら満足そうに見つめている

くしゃくしゃに丸めた新聞紙で、背骨にアジの身をつけていきます。

新聞紙が真っ白になったー！

赤の上に白で描いたら、ピンクになったよー！

うみにもどしてあげるのー！

アジをよく観察しながら、絵の具の上からオイルパステルで目やヒレなど、色を重ねたら完成です！

ミョウバン液につけて15分後・・・

水分が多いからギュギュっとしぼるよ

とても鮮やか！

染まりました！

洗濯バサミを取り外します！
どんな模様になっているかな？

緊張の瞬間！

頭巾みたいにかぶってみたよ！

染めている間に・・・

おばけのマーブリング

障子紙のツルツル面を下にして、マーブリング液で染めました。

おばけのお顔を描いたら完成です！

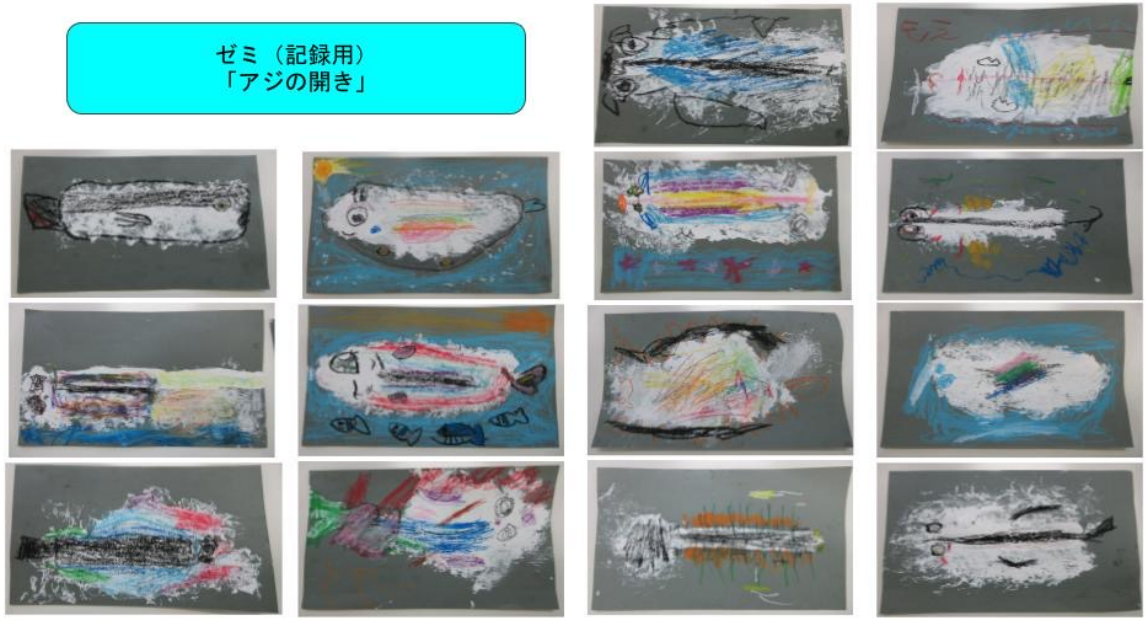
赤、青、緑を選んだよ。

2種類のおばけ型を選んで、マーブリング紙を貼り付けます。

余った紙で猫耳にしたよ！

保育園へ提供し、保護者へ提示することで、子どもの豊かな表現活動を伝える役割を果たす

ゼミ（記録用）
「アジの開き」



虹色のツリーにする

ここも葉っぱ

オイルパステルを使って好きな色でモミの木を描いていきます。

導入の写真で見たもみの木を思い出しながら木の形や葉の形を意識しながら塗っている様子も見られました。

緑のツリーができたよ！

アクリル絵の具を使って星と雪を降らせていきます。

星を型抜いた紙がスポンジにくっついたのを利用して、
そのまま星形スタンプに！
うまく星ができてとてもうれしそうでした。

もりのあーとくらぶ
観察評価の視点

ラーニング・ストーリー
「子どもの評価理解（アセスメント）」

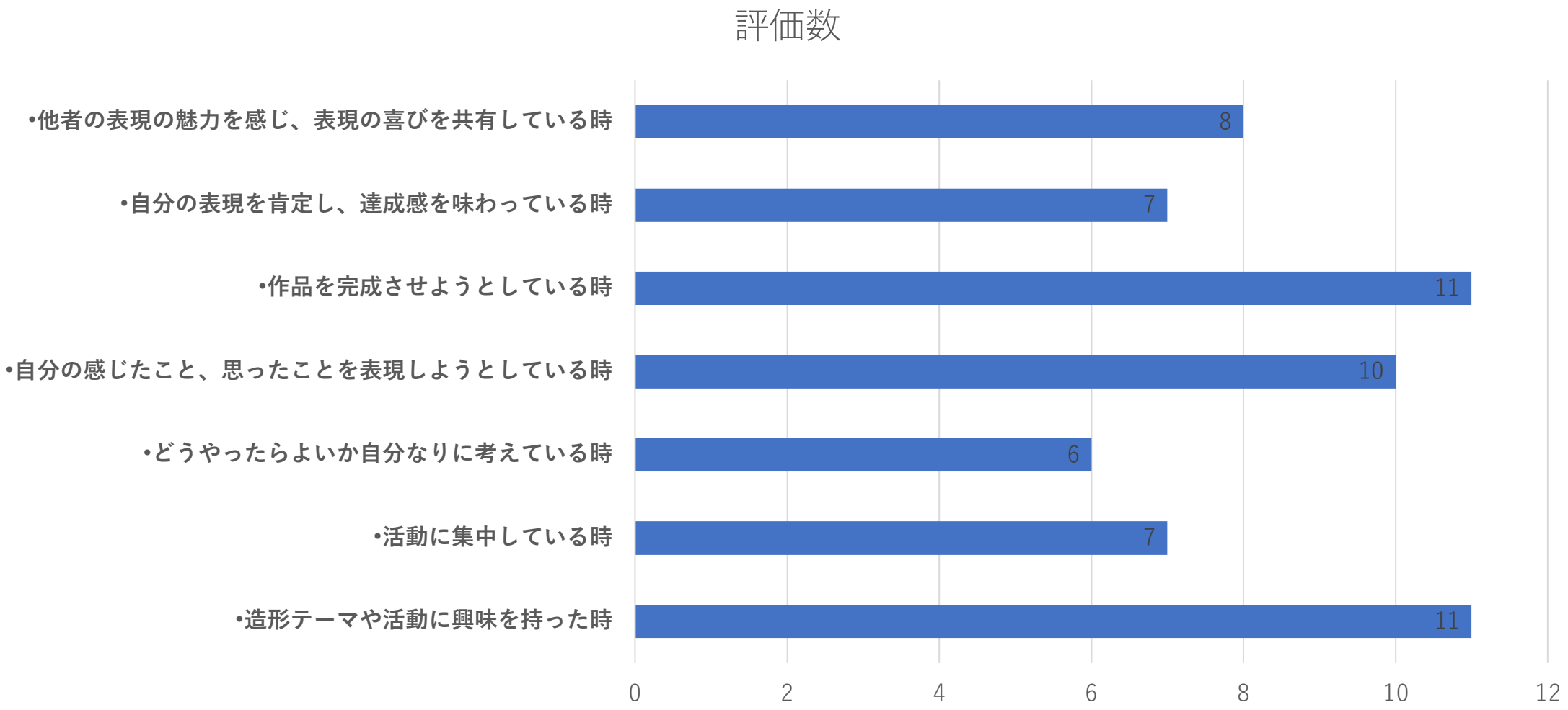
“よいところを見つけるという評価”
・何かに関心を持った時
・熱中しているとき
・困難に立ち向かっているとき
・自分の考えや気持ちを表現する
・責任をとる

「保育の場におけるアセスメントする－「学びの物語」アプローチの理論の実践
マーガレット・カー
ひとなる書房　2013

本実践にあたり、学生の観察評価視点として、テファリキ（ニュージーランド）の観点を参考として、子どもの造形活動へ対するポジティブ評価の観点を作成

1.造形テーマや活動へ関心を持った時
2.活動に熱中しているとき
3.どうやったらよいか自分なりに考え，解決しようとしているとき
4.自分の感じたことや思ったことを表現しようとしているとき
5.作品を完成させようとしているとき
6.自分の表現を肯定し，達成感を味わっているとき
7.他者（友達）の表現の魅力を感じ，表現の喜びを共有しているとき

評価のまとめ



データ提供:　子ども支援学科2023年度卒業研究　城尾菜々「子どもが自信を持てる造形活動の体験を作るためには」

考察

- 学生の記録から特に評価が高かった項目は、「活動へ興味を持った時」、「作品を完成させようとしている時」の項目であり、活動への子どもの意欲、また完成という目標を持って能動的に活動している姿を評価していることがわかった。
- 次に「自分の感じたことを表現しようとしている時」が挙げられており、保育指針「領域表現」のねらいに示されるように、子どもが感じた様々なことを造形という形にしようと試行錯誤する姿を学生が確実に捉えていることが示されている。
- このように、「～できる」ことに観点を持ち、一人一人の創造のプロセスに学生が着目している点は、保育において豊かな表現活動を援助するために重要な保育観を養う取り組みとなったことが示唆された。

まとめ

- 本活動では、３年ゼミ、４年ゼミの学生が連携を図りながら、各ゼミの協働によって、活動案の立案、教材研究を経て、造形活動を実践することにより、子どもの表現力を引き出す保育専門職者としての基礎力を身につけることができた。
- また、活動中の子どもの姿を記録し、ポートフォリオにまとめる作業を通して、活動プロセスの中での子どもの気づき、発見、工夫、創造性の具体について、より自覚的な学びを深めることができた。これらを保育園に提供し、保育士の指導を受けながら保護者へ提示していただくことで、間接的ではあるが、保育の活動プロセスを保護者へ伝え、子どもの育ちを共有する役割や意義を理解することができた。
- 更には、子どもの姿を捉える保育者の観点として、ポジティブ評価を用いることで、創造的な表現力の可能性を引き出す視点によって、子ども活動を援助できる保育者のマインドを育むことができたと考える。